



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	「エサルハドン王位継承誓約文書（ES0D）」と「申命記（Dt.）」の比較
Author(s)	高橋, 優子
Citation	基督教學, 53, 25-29
Issue Date	2018-07-13
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/75525
Type	journal article
File Information	03takahashi.pdf



「エサルハドン王位継承誓約文書 (ESOD)」と「申命記 (Dt.)」の比較

高橋 優子

1. 研究史の流れ

前9世紀から前8世紀（前710年頃まで）アッシリアの首都であったニムルド（カルフ）でエサルハドン王位継承誓約文書（Esarhaddon's Succession Oath Documents）が発見されたのが1955年であり、出版されたのは1958年であった。それまで類似の文書として知られていたのはヒッタイトの条約のみであり、申命記研究者はもっぱらヒッタイトの条約との並行関係を論じていた。しかし、ESODが9部発見された後には、申命記とESODの並行関係にも関心が集まるようになっていった。中でも、ESODと申命記28章の並行関係がもつとも

注目されることとなった。それは、いわゆる「呪いのリスト」の内容が酷似しており、事柄の順序まで一致しているものがあるため、両文書間における直接的引用が明白と考えられるからである。

他に、ESODと申命記13章のパラレルにも関心が寄せられたが、これについては28章ほど直接的ではないことから、文学的依存関係は証明されるには至っていないかった。さらにESODと申命記6章4-5節との並行関係への言及も一部に見られたが、これについてはさらに類似が限定的で、借用関係自体が曖昧な状態であった。そもそもESODと申命記に並行関係を見ることに対する批判も根強く存在してきた。例えば他の楔形文書資料にも申命記とのパラレルが見られること、あるいはニムルド（カルフ）以外ではESODの写しが発見されていないこと、そして本質的にESODと申命記は違うこと、あるいは聖書が「異教」をモデルにするとは思えないこと、そしてアッシリアが衰退してからアッシリアの文書を使うとは思えないこと、などの理由で批判が行われてきた。

しかしアッシリア中心地から遠いテル・タイナト（クナリア・クニリア）でESODが2009年に発見され、2012年にテキストが出版されて以降、申命記（とくに13・28*章）のESODへの依存関係が明白とみなされるうる状況が生まれている。そこでESODと申命記の関係を再検討する必要がある。そしてその際渡辺和子の業績を参照することが要請される。

2. ESOD研究への渡辺和子の貢献

渡辺和子は、この30年以上一貫してESOD研究の最先端を切り開いてきた研究者であり、ESOD研究の第一人者であるといえる。ESOD研究に対する彼女の多大な貢献の核は(1)ESODが宗主権条約ではなく、アデー（誓約）であることを証明したこと(2)ESODが神の印章を押された「天命の書版」の機能を持っていることを認識したこと(3)ESODの複雑な構成を論理的に整理し難解な新アッシリア語（文法）を言語学的に正しく解明したことにある。以下本発表ではESOD研究を高い水準で継続してきた渡辺訳を使用しつつ、新たな提案を行うことに

したい。

3. 交差的引用

聖書テキスト間の引用時に使用される“inverted quotation”「交差的引用」についてのサイデル（M. Seidel）³⁵、ビーニェス（P. C. Benjies）³⁶、レヴィンソン（B. M. Levinson）³⁷らの知見を援用すると、28章はもちろん、類似が明白ではなかった13章にも、直接的引用関係が認められることが明白となる。ここでは多数ある例のうちひとつだけESODと申命記の対応関係の例を見ておきたい。

4. ESODと申命記(Dt.)の対応関係(ESOD §63 (526-529) - §64 (530-533) とDt. 28:23-24)

§63 (526-529) 和訳

§63 同じく（、同じく）、その名をこの書板に挙げられたすべての神々が、³⁸あなた方に対して、一つの煉瓦のごとく土地を狭くするように。³⁹あなた方の土地を鉄のごとくするように。（そして）何もそこから芽を出さないように。

8 64 (530-533)

⁵²⁰ 青銅の天からは雨が降らないことく、⁵²¹ このことく
雨(と) 露があなた方の畑や⁵²² 草地に行かないように。
雨のかわりに⁵²³ あなた方の国に炭が降るように

Dt 28:23-24 和訳

⁵²⁴ あなたの頭の上の天は青銅となり、あなたの下の地
は鉄となる。

⁵²⁵ ヤハウェはあなたの地に埃と塵を雨(のように)与
え、それは、あなたを滅ぼすまで、あなたの上に天から
降る。

こゝでは要素が3つあるためか、少し違った形の引用
になっている。約束を破った場合のESODの呪いでは
(1)地が鉄のようになる(2)天が青銅のようになる(3)雨の代
わりに炭が降る、という順序であるが、申命記において
はそれが(2)↓(1)↓(3)の順序になっている。ただし(3)の内
容は、厳密に言うと同じではなく、「雨ではなく埃と塵
が降る」のであるが、引用関係は明らかであろう。

5. 申命記の「呪いのリスト」とレビ記の「呪いのリス ト」の比較

ESODとDtの比較だけでは証拠が足りないと思われる向
きもあるようであるから、聖書テキスト間での「交差的
引用」についてもみておく必要がある。申命記の「呪い
のリスト」とレビ記(Lev.と略記)の「呪いのリスト」
の間には、一目瞭然のDt 28:33とLev. 26:19b以外に
も内容的な交差的引用が2組確認できるが、とくに注意
を引くのが申命記28:23とレビ記26:19bの関係であ
る。

Dt 28:3 和訳

あなたの頭の上の天は青銅となり、あなたの下の地は
鉄となる。

Lev. 26:19b 和訳

(わたしは) あなた方の天を鉄のようにし、あなた方
の地を青銅のようにする。

申命記がESODから「交差的引用」をしたのとは違

う形でレビ記は申命記から「交差的引用」をしているのがわかる。レビ記は文単位ではなく単語単位での転位を行っているのだ。天と地が金属のようになって雨も産物も得られないというのが呪いの内容なので、天が鉄でも青銅でも、あるいは地が鉄でも青銅でも、呪いの趣旨には変わりがない。

そして、ここでもESODが天や地が金属のようになると、という比喻を作り出した最初のテキストかどうかということは問題にならない。ESODは遺漏なきよう各支配領域の呪いを収集したのであるから、ユダや他のところで最初に使用された「呪いのことば」である可能性も高い。ここで重要なことは、この「比喻」の起源がどこなのかということではなく、テキストの影響関係の順序である。上でみたESODとDeut. Lev.の3つの関連テキストを比較するなら、ESODのテキストが前672年に成立し、その影響下に（原）申命記が書かれ、さらに申命記の影響下にレビ記が書かれたという全体的な流れは想定できると思われる。

なぜ交差的引用という現象がおこるのかについては、

もともと韻文の並行法において変化をつけるために用いられていたinverted quotationが、散文に用いられるようになり、その際には単語レベル、文レベル、内容レベルといった多様なレベルでの転位が起こるようになったと考えることができる。

6. 結論

直接的な文学的引用関係を論じる場合、申命記28章に見られるような逐語的な借用や同じ順序があれば、その関係の存在が明白であるが、13章に表れるテキスト間の交差的関係も、当時の書記がテキストを引用する際によく使った手法を反映しており、直接的文学的影響関係を認めて良いと考えられる。

原申命記（概ね現在のテキストの12-26章と28章の部分）全体がESODをモデルにしたものということはできないが、他の並行例と比較すると、もっとも大きな影響を与えたものだと思われることが許されよう。近年申命記全体がESODをモデルにしているとする説も見られるが、これについては留保が必要である。スタイル

と内容に隔たりがありすぎるからである。いわゆる原申命記が前7世紀のヨシヤ治世前半に成立し、枠を形成する1-11章と27・29-34章はもっと後(改革期)に付け加えられたものだと考えられる。

いずれにせよ、前672年に発行されたESODが、前622年からはじまった(と想定される)ヨシヤの改革のために起草された(と考えられる)原申命記に直接的に影響を与えているということは、Dt. 28:23-33; 53:57および13:1-11とESODの並行箇所と比較から、明らかであると思われる。

本発表ではESODのテキストが申命記のテキストに直接的影響を与えている痕跡をたどることができた。両者の間に直接的文学的関係が存在することを前提すれば、さらに旧約聖書学の研究を深めることができると期待される。